学校法人産業教育事業団
マロニエ医療福祉専門学校
小山歯科衛生士専門学校
令和６年５月９日

令和５年度　自己点検･自己評価結果

目　次

（1）　教育理念・目標.....1
（2）　学校運営.....3

（3）　教育活動　作業療法学科.....5
理学療法学科.....8
看　護　学　科.....10
助　産　学　科.....13
看護学科通信課程.....16
歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....18
（4）　学修成果　作業療法学科.....20
理学療法学科.....22
看　護　学　科.....23
助　産　学　科.....24
看護学科通信課程.....25
歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....26

（5）　学生支援.....27
（6）　教育環境.....29
（7）　学生の受入れ募集.....30
（8）　財務.....32
（9）　法令等の遵守.....33
（１０）　社会貢献・地域貢献.....34

令和５年度自己点検・自己評価報告書作成に際して

１．評価担当

①教育理念･目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	総務課
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

２．評価数値の意味

４ … 適切に対応している。
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。

３ … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。

２ … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。

１ … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

（1）教育理念・目標

Q	評　価　項　目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	４
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか）	４
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	４
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	３
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．本校の建学の精神のもと、教育理念・教育目的・教育目標を定めており、福祉・医療分野において社会のニーズに対応できる人材の育成を目指している。また、福祉・医療人として求められる専門の知識・技術の教育は勿論、豊かな教養と感性、人間性、社会貢献への使命感を育むことに努めている。

2．各福祉・医療分野の強みを結集して人をケアする時代に即して、チーム医療を支えるべく多職種連携教育（IPE）に取り組んでいる。

3．高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校となることを目指して教育の質の向上に取り組んでいる。 また、法人全体の中期ビジョンとそれに基づく単年度の運営目標・計画を定めている。また、ビジョン発表会を実施する事により職員間で共通理解を図り、ビジョンの実現に向けて同じ方法を向いて進むようにしている。

4．本校の教育理念及び各学科の教育目標、ならびに、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを公開し、それに沿った教育活動を展開している。また、高校生・保護者にはオープンキャンパスや進学説明会などあらゆる機会に説明している。在校生及びその保護者に対しては、一層、理解に努める必要がある。

5．関連業界・実習施設等から選出された外部委員を交えた教育課程委員会や、実習施設訪問等の機会を通じて得られる意見・情報をもとに方向づけ及び見直しを行っている。

【課題】

○医療・福祉関係の各職種において人材の確保が求められている中、中学高校生の生徒数の減少傾向が顕著である。
○関連分野での人材確保という原点に立ち返って、きめ細やかな教育を施せる環境、教育体制を確立していく。
○高校生・社会人に選ばれるとともに、福祉・医療施設から期待される人材を輩出することで、地域から信頼される専門学校となることを目指す。

【改善方策等】

○第二期中期ビジョンで示した「活躍できる人材を社会に輩出することを目指し、学生一人ひとりに寄り添い、将来の仲間として育てるために、教職員が一丸となって取り組む」というミッションを自覚し、具体の各ビジョンの実現を図れるようにする。 ○本校の教育活動の大きな特色である「多職 種連携教育（IPE)」の内容を充実させる。 また、その意義や成果について学生への理解を図るとともに校外へもより積極的に発信していく。 ○高等学校、医療関係施設、行政機関等を訪問し、学校へのニーズと要望、諸機関との連携の在り方、社会の趨勢等の把握を図り、絶えず学校の在り方や方向性を見直す。 ○学生・保護者に対し、新入生オリエンテーション、MO 後援会、学生や保護者との面談など、あらゆる機会に学校のビジョンや運営方針について周知・理解を図る。

（２）学校運営

Q	評　価　項　目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	４
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	４
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	４
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	４
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	４
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	４
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	４
8	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	３

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．毎月開催される運営会議において、ビジョンや学校運営について定期的に審議されている。学科長はその決定に基づき学科の運営をしている。

2．年度の事業計画は、学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づくものかを精査し理事会の承認を得ている。作成した事業計画は年度初めの全体会議で各部署から発表することにより、職員の共通理解に努めている。

3．本校の組織運営及び管理は、法人の理事会・評議会のもと、学校においては校長を責任者、学校運営会議を議決機関とし意思決定を行っている。また本校の校務分掌組織は規則等において明記されている。学生の指導に関する規則の見直しを行った。

4．法人本部が所管しており、基準や手続き等を整備して適切に実施している。また、2019 年度より人事考課制度を実施し、組織の活性化を目指した人事考課の機能がより高まってきている。

5．意思決定のプロセスと仕組みは制度化されており、組織図及び校務分掌によって業務範囲が示されている。また、各学科では教務会議を開催し、学科内役割分担を適切に行い運営に当たっている。

6．専修学校基準及び養成施設指定規則を遵守し運営している。また倫理委員会の開催、学生サポートセンターと校長・統括部長との連携による指導などによってコンプライアンス体制を構築している。
また、職員研修等でコンプライアンスや危機管理研修を実施した。

7．学校のホームページにて、本校の教育活動・運営状況等を社会に対して広く公開している。また、保護者で組織された後援会が発行している会報において教育活動をはじめとする各種情報を発信している。

8．学内の情報共有、伝達は「サイボウズ」という情報管理システムにより充実が図られている。

【課題】

○学生・保護者・関係施設病院・行政機関等にきめ細やかで誠意ある対応を心がけ、本校への信頼、期待、支援に繋げていくこと。 ○共通でありながら学科毎に個別に行っている事務や情報処理について学校全体での共通化を図り、業務の一層の効率化を図ること。

【改善方策等】

○職員が意欲をもって働き、能力を高めることができ、働き甲斐のある職場になるように、人事考課制度を実践する。 ○各職員が第 2 期ビジョンに沿ったクレド（価値観や行動規範）を持ち、具体的な目標の実現を図ることで学校の教育力を高めている。 ○教員のアカデミックラダーに基づいた取り組みを促進する。また、教員研修を体系化し、キャリアに応じた研修を実施する。さらに公開授業や授業研究を強化し教員の授業力の向上を図る。 ○職務、授業などにおける部署間、学科間の職員の交流及び協力体制を構築し、学校が一つになって同じ方向に向かって仕事ができるようにしていく。 ○サイボウズの機能をさらに活用し、業務の効率化、軽減化を図ることで、職員が学生の教育やサポートに携われる時間を十分に確保する。

（３）教育活動　作業療法学科

Q	評　価　項　目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	４
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	４
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	４
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	３
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	４
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	４
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	４
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	４
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	４
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	４
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	４
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	４
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	４
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1、2.

学校の理念に基づき教育課程をデザインしている。また、厚生労働省の認可を受け、その基準を遵守している。同時に、「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定校」の第三者評価を活かした教育課程の編成とその実施方針を策定している。以上のことを学科の土台としつつ、継続してブラッシュアップしている。

3. カリキュラムは、項目１・２の認可・認定基準を満たしたものとなっている。また、カリキュラムは、教育課程編成委員会等のフィードバック等を受け、定期的にその内容の見直しを図ることで体系的な授業を展開する工夫を行っている。

4～6.

昨年度に続いて、教育課程編成委員会等のフィードバックを活かしながら業界を巡る動向を適宜把握し、学生のキャリア形成を育むような授業内容を検討する学科会議を定期的に開催した。

各授業開始時にはオリエンテーションを必須とし、①シラバス ②科目の位置付け ③目的 ④到達目標 ⑤成績評価の方法と項目 ⑥授業計画等について説明を行った。さらに職業教育を最重視する観点から、学内外の演習・実習の時間数を可能な限り確保し、展開方法を工夫しながら実施した。また、学外実習

（臨床実習）を実施（3･4 年次）、実習指導者会議にて意見交換会の他に診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）における実習指導の方法についてのミニレクチャーを実施した。
演習・座学授業では、問題解決型授業と科目進行型授業の授業展開を分ける工夫を行った。

7. 昨年度に続いて、学生対象の授業アンケートが実施された。アンケート結果をもとに教員へのフィードバックを開講する全ての授業科目で行った。また、授業や個別面接の質を上げることを目的とした定期的な学科ミーティングや学科内授業参観で、教員間の相互フィードバックの機会を継続して設けた。

8. 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会等にて、卒業生や関連分野業界である病院・施設など外部関係者から評価を受け、その結果を積極的に学科運営と職業教育に取り入れている。

9. 成績評価ならびに単位認定・卒業認定は「学則」と「細則」に従い適切に行った。また、授業開始時に学生に対し評価・認定がどのような手続きの中で行われることを周知した。

10. 資格取得に向け受験対策授業や模擬試験等を計画的に実施した。
令和５年度も学校冬期休業中に教室を一部開放し、教員が分担出勤してサポートしながら、国家試験対策を行った。

11～14.
「学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育み」を実現出来る授業展開、及び学生への個別支援力を学科教員の成長テーマとしている。そのための共有スローガンとして「臨床力」「教育力」「地域貢献力」を掲げている。その実現のために、教員としての質の向上（臨床・社会活動での臨床能力向上など）を継続した。その結果、学科教員の学会発表や栃木県作業療法士会主催の講習会講師などの成果を上げることができた。また、新任教員においては（一社）全国リハビリテーション学校協会（他 PT 協会、OT 協会）共催の理学療法士作業療法士専任教員養成講習会に参加し教員としての質の向上に勤めた。その他、関連専門職の動向を適宜把握しながら、各々の臨床能力向上のための研鑽内容を、学科会議とは別に時間を設け定期的に共有するよう努めた。
同時に、対外的な働きかけとして（一社）栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を開催した。

【課題】

１.「WFOT（世界作業療法士連盟）」認定校継続のための審査が今年度実施されたが、結果が「不認定」となってしまった。満たしていない要件が教員要件であった。 ２.「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応するため、臨床実習先の指導者との連携が一番の課題である。同時に「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」の三つの柱を組み合わせた授業展開を図りつつ、学生個々の臨床基礎力を底上げすることが継続しての課題である。 ３．次期指定規則改正に付帯する課題として「客観的臨床能力試験（OSCE）」および「共用試験」の準備が挙げられる。

【改善方策等】

課題１に対して

（１）認定校として承認されるように、教員要件を満たすため症例報告（週１回の臨床研修）および認定講習会の受講を学科教員のミッションとし「認定作業療法士」取得に努める。

課題２、３に対して

（１）（一社）栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を継続開催し臨床実習指導者とのつながりを密にしていく。

（２）（１）の継続開催を通して教育基準を満たしつつ臨床現場が求める課題をより明確にし、教員一人ひとりと臨床実習指導者、ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の関係施設等や業界団体等と具体的に共有する。

（３）（２）で共有した課題に対して、その解決のための教育方法の工夫（「問題解決型授業（PBL)」「科目進行型授業（SBL)」「客観的臨床能力試験（OSCE)」等々）や教材の開発などをより体系的に進める。

（４）（３）の課題解決のためのロード・マップを作成し、定期的なミーティング（カリキュラム・ミーティング・授業内容検討会）をそれぞれ月１回程度実施する。

（３）教育活動　理学療法学科

Q	評　価　項　目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程編成委員会および指定規則に基き策定されている。
2. 学習の手引、シラバスに明記されている。
3. 指定規則に基づき編成されている。
4. 職業実践として学外実習が設定されており、適切に指導者へフィードバックされている。
5. 学外実習に伴い、実習指導者と意見交換し実施されている。
6. 学外実習が実施（3・4 年次）されている。
7. すべての教科でアンケートが実施されている。
8. リハビリテーション教育評価機構の評価を受けている。（2023 年度に評価を実施し 2024～2028 年にかけての認証を受けた）
9. 学習の手引、シラバスに明記されている。
10. 授業において国家試験に対応したコアカリキュラムに基づく編成がされている。
11. 要件を備えた教員を確保している。
12. 関連分野の職能団体と関連の深い教員を確保している。
13. 教員には研修日が設けられている。
14. キャリアラダーに基づく実施が予定されている。

【課題】

次年度以降の学科運営にあたり、人員の強化や実習地の確保といった課題がある。

【改善方策等】

近隣実習施設とのつながりをより一層強化すべく、学校の状況を説明したうえで協力体制を確立していく予定である。医療職の後継者を学校だけでなく、臨床現場にも意識してもらうことでこれらに対応していく。（実習先などに学生募集のポスター等を掲示依頼する）

（３）教育活動　看護学科

Q	評　価　項　目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	４
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	４
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	４
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	４
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	４
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	４
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	４
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	４
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	４
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	３
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	３
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	３
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	３
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	３

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。教育理念に基づき看護学科の特徴を新カリキュラムに反映し、実践している。また、実施方針も明確に策定し運用している。

2．指定規則および「看護師養成所運営に関するガイドライン」における「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を参考指標としてアドミッションポリシー、ディプロマポリシーを策定している。また、３年間の修業年限で完結できるように学習時間の確保をしている。

3.「看護師養成所運営に関するガイドライン」に沿って、カリキュラムは体系的、段階的に編成され教育目標が達成できるようにしている。

4．令和５年度は途中から新型コロナ感染症が５類になったため通常の対面授業、演習、技術練習時間の確保ができた。臨地実習も病院等の感染拡大防止で学内実習になったこと以外はほぼ臨地で実習することができた。学内の場合はシミュレーションやロールプレイ実習、看護過程の思考強化など臨地実習に近い学びを提供することができた。

5. 実習施設、県内外大学との連携は講師派遣や臨床講義、実習依頼、教育課程編成委員会での交流会や情報交換などで意見をいただき、カリキュラム反映や学生指導に活かすことできるように努めている。

6. 教育課程に基づき、実習を段階的に配置するなど体系的に実施している。令和 5 年度はほとんどの所でインターンシップを経験でき就職活動につながった。令和 5 年度は県外就職者が例年より 2 倍ほど増えたが、実習病院への就職も一定数あることから、臨地実習が学生の職業意識を結びつける役割は大きいと考える。

7. 全科目の学科試験、レポート評価、実技評価、評価表による評価など多様な評価としている。
授業アンケートから課題を講師に返し改善、講師選定の参考にしている。教員に関しても個々に結果を踏まえて授業案の工夫に活かしている。

8. 実習病院等の外部関係者から例年同様、対象者とのコミュニケーション、対象者やスタッフとの人間関係構築に課題があると報告を受けている。令和 4 年度からのカリキュラムで、課題を克服できるように組み立てている。また、教職員からの発信を強化し、早期に人間関係を構築できるようにしている。

9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定は学則及び学科細則に基づき会議で適正に判定している。
全科目の評価方法について確認し、シラバスに明記している。

10. 国家資格取得のため、授業計画も出題基準に応じた組み立てをしている。また、1 年次から一貫した指導体制で補習講義、模擬試験、外部ゼミなど定期的に実施している。全学生が意識する働きかけを行っている。その他、学生 1 人ひとりの学力面・メンタル面のサポートを担任中心に行っている。また学習要強化者に対してチューター制を取り入れ、特に密にサポートをしている。

11. 令和 5 年度は教職員の退職がなく、クラス運営や講義、学生指導、実習指導など安定して運営できた。職歴も 2 年目以上になり、経験が蓄積できたことで、教職員の目標達成に近づいてきている。

12. 実習指導は施設と密に連絡をとり、連携強化に努めていることで協力が得られている。講義に関しても講師を派遣していただき、医療現場の実態に即した教育をお願いしている。

13、14.
県看護系教員協議会の学生指導、授業案研修、専門領域研究へ参加、オンライン研修で教育方法などを学び、教職員会議で学生指導のあり方など討議を繰り返し、教育力向上に努めた。徐々に現在の学生状況に合わせた、講義・実習、生活指導などができてきている。

【課題】

令和 6 年度の入学者数が例年の半分であった。年度当初、教員の指導が一致していないことがあり、学生が不安に陥ったことが原因の 1 つになっている。また、オープンキャンパスが参加者にとって魅力が得られなかったこともあるので、受験生の確保が必須である。

【改善方策等】

統一して一人ひとりに丁寧な説明と指導を行い、学生満足度を上げる。オープンキャンパスはわかりやすくかつ親しみやすいプレゼンテーション、他校と違う演習体験、学生広報委員との協働、インスタグラム発信、卒業高校への近況報告、出前講座・職場体験の参加などに取り組む予定である。

（３）教育活動　助産学科

Q	評　価　項　目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	４
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	４
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	４
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	４
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	４
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	４
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	４
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	４
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	４
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	４
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	４
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	４
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	４
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

新教育課程運用２年目。実践しながらの評価を行いながら教育実践を行った。

1．教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。「そばにおいてもらえる助産師」というフレーズを前面に出したことで統一感のある教育課程になっている。

2.「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」における「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、また全国助産師教育協議会の示す「ミニマムリクワイアメンツ」を到達レベルの参考指標としている。また、卒業時に求められるレベルを学生にも到達目標として示し、1 年間の修業期間の中で効率的に学べるよう工夫している。

3．本校の教育理念、助産学科の教育に関する基本的考え方に基づき系統的な教育課程を編成している。シラバスにより科目ごとの学習目標や位置づけを明確にし、1 年間の修業期間により効果的な学習ができるよう心掛けている。

4. 看護基礎教育での学修環境の変化や、急速に進む分娩件数の減少等が助産学生の準備性に影響している。そのため入学直後からの学習への動機づけや、既習項目の強化など学ばせ方についてさらなる改善を試みた。

5. 年 2 回開催する臨地実習指導者会議で、本校の教育課程について説明し、意見交換を行っている。
また、実習期間内や終了後も施設との対話を行いながら、実習施設ごとの機能や特性を踏まえ、画一的ではなく柔軟に、共に実習をデザインすることで意識の統一を図っている。

6. 助産学実習は分娩介助という医療行為を実践する場であり、対象者の権利を擁護するために、実習開始までの知識・技術の確実な修得を目指し、カリキュラムを展開している。学生が担当する分娩介助件数の平均も減少する中で、1 例からの学びを広げ深化させる関わりと、学内でのシミュレーション教育の充実にも力を入れ、到達レベルを堅持した。

7. 学校全体で実施する授業アンケートを実施しすべての科目の評価を受けた。結果については学科内で回覧し、課題の共有を図っている。

8. 実習施設とは日頃から意見交換がしやすい関係構築に力を入れている。臨地実習終了時には、実習指導に関するアンケートを実施し、準備、実習内容、教員との連携等について確認を行い、修正が必要な場合は対応している。

9. 成績評価・単位認定に関しては、看護師養成所指定規則及び本校学則に基づき厳正に実施している。全科目の評価方法について点検し、シラバスに明記している。

10. 資格取得支援については、過去の結果を踏まえ、入学直後から具体的なガイダンスを行い、年間計画を立案して取り組んだ。 学生個々の特性を早期に把握し、課題のある学生については、関係を維持しながら支援が受け入れられるよう担当制や、時機を見た介入を行った。

11. 教員間の関係を良好に保ち、やりがいをもって職務に当たれる組織づくりと、離職防止に努めている。役割については円滑な業務遂行を維持できるよう分掌している。常勤・非常勤職員を含め第一線で活躍する人材を講師として確保できるよう努めている。

12. 関連団体（栃木県看護協会、栃木県助産師会、全国助産師教育協議会、助産師学校教務主任会議）と連携し、情報収集や人脈の拡大に努めている。

13. 14.
研修には積極的に参画している。
また、新人教員の教員への適応や教育実践については本人任せではない、きめの細かいサポートを心掛けている。

【課題】

クラスメンバーの構成によりレディネスが年ごとに異なる。（年齢・経験　専門学歴出身校による教育内容のバラつきによる差異）そのため学生に合わせた学級運営を求められている。 （1 年間の修業期間のため対応が難しいこともある）

【改善方策等】

①早期の学生把握 ②入学と同時に卒業時を見通した 1 年間の学習計画をクラス、個人で立案することで学生と教員の協働による修了を目ざす。 ③個々の学生に適した対応をするための情報共有と協力体制のもとに行う介入。

（3）教育活動　看護学科通信課程

Q	評　価　項　目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	2
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1～3、9～10.

カリキュラム改正に伴い、2 年生旧カリキュラム、1 年生新カリキュラムと移行期ではあったが、内容を示唆、明確にし、体系的に編成できている。

4. 学生は、准看護師としてのキャリアを積んでおり、技術はすでに修得している。しかし、その技術における根拠付けが苦手な学生が多い。「科学的思考」「根拠」の部分について強化できるように実施している。

5. 月 1～2 回デイゼミ・ナイトゼミを実施し、オンラインによる国試対策も行ってきた。また、外部講師による国試対策も実施した。

6. 実習のガイドラインに則り、実習のカリキュラムを組んで実施できている。

7. 授業・実習に関して学生への授業評価を取り入れることができていなかった。学生からの意見を聴くことはできていたが、具体的な数値としての授業評価が整っていない現状である。

8. 年に 1 回、添削教員会議の際に、臨地実習 I の紙上事例のアセスメントについて意見を聴き、参考にしている。

11. 専任教員の必要人数の確保に向けて、実習指導教員は大学で履修している。全教員連携をとりながら教育活動を実施できている。

12. 全国通信制看護学校協議会等への参加で、様々な情報を収集している。また、栃木県看護協会をはじめとしたパイプを活用し、教員や添削教員の確保に努めている。

13、14. 各教員が学びたい研修を探し、参加することができている。教員同士で情報共有や協力をし、研修に参加できるよう取り組んでいる。

【課題】

①1 年生、2 年生ともに新カリキュラムに整い、それに沿った教育を実施し学生に対応していく。 ②学生の置かれている状況を鑑み、1 つの科目に対して講義会場・講義日程を増やして体制づくりを行っている。2 年生は 4 会場、1 年生においては茨城会場を増設して 5 会場行う予定であるため、外部に出ている教員が増えることでの情報共有がタイムリーにできていない。

【改善方策等】

①教員全員がカリキュラム内容について把握し、学生に不利益にならないように対応していく。 ②学科の教員間のラインやサイボウズを充分に活用し情報共有の場とする。また、朝礼にて学年ごとに学生状況を報告するとともに、その内容をサイボウズでも共有し、全体周知を行っていく。

（３）教育活動　歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評　価　項　目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	３
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	４
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	４
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	４
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	３
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	３
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	３
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	３
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	３
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	３
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	３
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	３
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	２
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	２

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿ってカリキュラムを策定している。また、実施方針も明確に策定し運用している。

2、3.
入学から卒業までの授業時数や単位数は、「歯科衛生学教育コア・カリキュラムのガイドライン」に沿って、修業年限に応じた到達目標を設定し、歯科衛生士としての必要な技能を修得するための適正な時間数となっている。

4．新型コロナウイルスの影響も薄くなったことから、学外実習の前には実習指導を丹念に行い、実習に送り出すことができた。歯科医院のみならず、介護施設にも実習に行くことで、歯科衛生士としての仕事の幅を持たせることに役立てたと思う。また、行事等に絡め、職業人となった時に不自由しないコミュニケーション能力を育成することに努めている。

5．歯科衛生士の職能団体である、栃木県歯科衛生士会や各方面の団体のメンバーと連携を取り、年に２回の教育課程編成委員会を開催し、カリキュラムを開示し授業内容や実習内容を適宜検討している。

6. 臨地臨床実習は歯科診療所をはじめ、大学病院や小学校、介護施設と幅広く、教員も巡回し実習指導者と意見交換し、特に実技面での習得に力を入れている。

7. 授業アンケートを全教科行い学生からの評価を受けた。結果については学科内で回覧し、今後の授業づくりに活かしている。

8. 実習施設とは、常に情報を共有しあい、緊密な連携が取れるような人間関係を構築している。実習時の巡回指導や、実習指導者会議でのご意見を重視し、修正が必要な場合は早急に対応している。

9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準に関しては、各科目のシラバスや学則ならびに歯科衛生学科細則があるものの、再々試をめぐっては判断に迷うことがあり、今後学科内で協議が必要。判定に関しては、成績資料を基に、判定会議を開催し学校長の認定を受けている。

10. 資格取得のための国家試験対策として段階的に全教員が学生をサポートすると共に、外部講師による国試 対策講座・模擬試験等の対策を行っている。

11. 厚生労働省の要件を満たす教員を配している。教員歴の浅い教員については他の教員の実習の補助を積極的に行い、自らの授業を組み立てる際の参考にしている。非常勤講師は実践の場で活躍している人材を確保している。

12. 関連職域団体（栃木県歯科衛生士会）と連携し、情報収集や人脈の拡大に努めている。また、実習施設から講師派遣をしていただき、医療現場の実態に即した教育が実現できるように取り組んでいる。

13. 教員の資質向上のため、積極的に歯科衛生士会や関係諸機関の開催する研修会や講習会に参加し、教員間での知識の共有に繋げている。

14. 教員間で学習会や研修会の開催が困難だった。

【課題】

参加型の授業が展開できるよう教員間で研修会を開き、教員一人ひとりの「教育力」「臨床力」の向上を図ることが課題となっている。

【改善方策等】

展開した授業内容を報告し、意見交換を行う。 半期ごとに授業参観や研修の計画を立て、時間割に組み込み、実施する。

（4）学修成果　作業療法学科

Q	評　価　項　目	評価
1	就職率の向上が図られているか	４
2	資格取得率の向上が図られているか	４
3	退学率の低減が図られているか	２
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	３
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、学生本人・学生サポートセンター職員・学科教員との連携の中で目標の達成を図った。その結果、就職希望学生全員が就職した。

2．資格取得率向上に向け、1 年次から 4 年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を継続した。また、毎年の国家試験問題を分析し出題科目毎の学習課題を明確にした上で対策を行った。
外部模擬試験も、３回実施し、国家試験本番に配慮した対策の一環として行った。その中で、卒業生の国家試験対策の結果を詳細に分析し、4 年次学生の結果と比較することで、より精度の高い合否の可能性などを把握することが出来るようになった。同時に、学生一人ひとりへのより的確なフィードバックを行った。その結果、全員合格の結果となった。

3．退学人数は昨年度比３名増加の結果となった。昨年度同様の主担・副担の 2 教員による学年担当制ならびにキャリアデザイン担当教員を配する中で、学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育みを支援した。特に、定期的な個別面談等の中で、学生個々の課題とストレングスを明確にすることに重点を置いた。同時に、ドロップアウト・リスクの高い学生にキャリアデザイン担当教員が個別サポートを継続した。しかし、結果には反映されず今後の課題となった。

4．作業療法学科独自の卒業生の勉強会を継続的に実施して来たが、活動が限定的となってしまった。
しかし、Zoom などの活用により、最低限の活動継続を維持することができた。

5．設問 4 の活動から得られるフィードバック内容を、学科教育活動の改善に活用した。特に、協働しての地域社会への情報発信などを、学科の SNS を活用し行った。

【課題】

ドロップアウト・リスクの高い学生に対し、複合的な視点からのサポートを行い退学率の低減に勤めていく。

【改善方策等】

（１）学習面のサポートを重視した支援を、１・２年生の該当学生については特に重点的に行う。 （２）心理面のサポートについては、学生の家族をも含め行う。（可能な範囲で経済的側面へのサポートも必要に応じて対応）

（4）学修成果　理学療法学科

Q	評　価　項　目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．就職率に問題はない。

2．資格取得率の向上に向けた対応は図られているが、成果をもう少し上げたい。

3．退学率にかかわる学業成績、生活習慣への対応が、学生個人レベルで実施されている。適切な進路に関するアドバイスも含め、対応はされている。

4．実習および職能団体の集まりにより、卒業生の状況を把握できている。

5．現状では十分に活用されていると思われる。在校生と卒業生の授業による関わりもできている。

【課題】

国家試験合格率の向上を図りたい。

【改善方策等】

具体的な対応策を学校全体の取り組みとして計画し、9月より活動予定。
また、例年よりも国家試験対策のレクチャーとスケジューリングを密にする。

（4）学修成果　看護学科

Q	評　価　項　目	評価
1	就職率の向上が図られているか	４
2	資格取得率の向上が図られているか	３
3	退学率の低減が図られているか	４
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	３
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	３

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．就職ガイダンスや早めの活動により、就職希望の学生は就職できている。実習病院への就職は推奨していたが、昨年より大幅に減少している。県外の就職が例年より２倍ほど増加している。

2．例年通りの国家試験対策と教員による学内補講を追加したが、令和５年度の結果は低迷した。

3．学生から不安の相談を受けたり、励ましたりなど、学生へ丁寧に関わった結果、令和５年度は退学者3.4%と昨年の半分にとどまった。

4．実習病院での評価はおおむね良好であるが、それ以外の施設等の評価は把握できていない。

5．上記４の評価からカリキュラムデザインや病院実習の展開に活用している。

【課題】

令和 5 年度は国家資格取得者率が全国平均より大幅に低かった。総体的に勉強時間が不足していたと考える。例年、20 時までホールや演習室を開放し自主学習していたが、5 年度は 18：00 までが最大時間だった。また、参加学生が少なく自宅学習者が多かった。結果として学習の進捗がつかめないままサポートまで結びつかなかった。

【改善方策等】

令和６年度は国家試験対策の専従教員を１名配置し、1～3 年を一貫して担当
　１年は担任を中心に学習の仕方を説明、グループ学習、毎週の課題提出
　２年生は国家試験問題の解説、ショート補講、
　３年生は全員をチューター制にし、学習指導・情緒のフォローなどを行い学生に安心感を与える。
　その他ショート補講、内部模擬試験、外部模擬試験回数、外部補講回数の増加
上記内容を実施していく。

（4）学修成果　助産学科

Q	評　価　項　目	評価
1	就職率の向上が図られているか	４
2	資格取得率の向上が図られているか	３
3	退学率の低減が図られているか	４
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	４
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．既卒の学生が多く、就職先については自己決定が進んでいた。一方で新卒の学生は、就職活動の経験がないため、きめ細かい相談対応が求められた。令和 5 年度は第一希望に就職できない学生が増加し、就職試験結果発表後の施設選択、併願などで繊細な支援が求められた。

2．入学前から支援プログラムを見直し、早期介入を行った。また正答率の分析に学習範囲の焦点化や、伸び悩む学生の特性を把握しながら、伴走型の支援を行った。国家試験 3 週間前の時点では 5 名程度の学生が合格ラインに乗っていない状況だったが、関係を維持しながら粘り強く支援を実施したことで 29 名の合格を達成した。

3．１年間という年限を見越して、学生のモチベーションの維持への支援を心掛けた。学業不振の学生に対しては個別の手当てを行い、到達レベルを満たすことに注力したことで退学者はゼロにおさえることができた。

4．　卒年 2 回開催する home coming day! が定着し、卒業生の動向を把握する機会となっている。実習施設に就職した卒業性が増えたことから、施設との対話を通じて卒業生の状況は得やすくなっている。就職施設に卒業生の参加を依頼したことで安定的な協力を得られた。

5．　少子の進行により、就職後の助産師のキャリア形成に変化が生じていることが卒業生の就業状況から伝わってくる。分娩中心という狭義の助産活動にとらわれることなく、助産師の活動について幅広くキャリアを展望できるよう助産学概論などの科目の中で意識づけている。

【課題】

全員の国家試験合格

【改善方策等】

入学時からの支援プログラムの再構築。 国試対策に係る年間スケジュールのさらなる工夫。特に入学時の動機づけと興味関心を失わせないための授業研究を行う。

（4）学修成果　看護学科通信課程

Q	評　価　項　目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	３
2	退学率の低減が図られているか	４
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	２
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	２

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1. 学生の学習時間を考慮し、デイゼミ・ナイトゼミの時間を変更、ZOOM による生配信による国試対策、学習動画の作成・配信、低迷者への毎週の問題配信などの国試対策を実施した。2 年間で卒業できた学生のみの合格率は 91.2%であった。一方で留年生の合格率が低くかったが、新卒の合格率は 85.1%であり、通信課程の新卒の全国平均（83.5%）より上回った。

2. 令和 5 年度の退学者は 0 であった。

3. 在校生及び卒業時の就職状況についてはアンケートを行っているが、その後は継続的な調査はしていない。卒業生より連絡があったときには、近況を聴くようにしている。また、パンフレット作成時に卒業生に連絡を取り、近況を伺っている。

4. パンフレット作成時等に収集した卒業生の声も参考にし、教育活動や国家試験対策等の改善を行っているが、情報源が少なく、偏りもある。

【課題】

①資格取得率の向上
②学科および学校評価の向上

【改善方策等】

①年間計画のもとに国試対策の充実を図っていく。また、留年生に対して担当の教員を設けて支援の強化を図っていく。
②領域担当を複数にし、教員間での情報共有をより一層密にして、段階的に学習していけるように支援していく。

（４）学修成果　歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評　価　項　目	評価
1	就職率の向上が図られているか	３
2	資格取得率の向上が図られているか	２
3	退学率の低減が図られているか	２
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	３
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	３

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．国家試験後に就職を決めたいという学生が多く、時期的には遅くなったが、就職率は問題なかった。

2．一人一人の学習レベルを把握することができなかった。国試対策の方向性を確認しながら全教員で取り組めたことは良かった。

3．歯科衛生士へのモチベーションを持ち続けられない学生が多く、退学者が出てしまった。

4．歯科医院での活躍はさることながら、多職種と連携しながら業務をしている者の評価は高く、今後も継続していけるようリサーチする。

5．多種多様な歯科の社会的ニーズに応えられるよう、カリキュラム以外の講座を入れ即戦力となる歯科衛生士の育成をしている。

【課題】

国家資格取得に関しては、学科全体での対策の遅れがあった。不登校気味の学生への支援が足りなかった。
連絡が取れずに無断欠席となる学生の支援がうまくいかなかった。

【改善方策等】

学生の個性や学力を把握し、全教員が積極的な関わりを持つことで、国家試験対策を一丸となって行う。 学生にも早い段階で将来を見据えたイメージを描かせ、進路選択に迷いが出た学生には面談を重ね、 資格取得に向け支援をする。
退学に関しては、学生の考えも考慮し、将来を見据えた指導をしていく。

（5）学生支援

Q	評　価　項　目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1. 就職活動支援に必要な専門の人員を配置し、関連する医療系の就職説明会を実施するとともに、就職活動に役立つガイダンスを早期から行い支援している。また、就職活動の状況を学内で情報共有し連携に努めた。

2. 相談室を設置し、専任のカウンセラーを配置している。その他、学生の相談内容の多様化にあわせ、専門の資格をもった職員と学生サポートセンターの職員も相談に応じるとともに、希望により対面だけでなく、Zoom 等でも対応している。相談室の利用に関して、適宜校内で案内し、相談記録を適切に保存している。

3. 日本学生支援機構の奨学金の他に、国の教育ローン、県の修学資金制度等をはじめとした公的機関の奨学金制度、病院や民間の奨学金制度の紹介・案内及び取次事務を積極的に進めている。
学費納入が困難な学生には分納・延納などで柔軟に対応しているほか、入学金の減免制度、一部学科に関しては社会人経験者の学生向けに教育訓練給付制度も導入している。また、両校とも修学支援新制度（給付型奨学金＋授業料等減免）の対象校として認定されている。

4. 学校医を選任し、保健室を整備するとともに各号館の窓口に常備薬を置き、AED を設置している。また、定期健康診断を実施し、有所見者へは適切に対応し、記録を保存している。健康に関する啓発活動としては、産業医による禁煙講座等を行っている。

5. 学生の自治会活動であるスポーツ大会や学校祭の運営にも学校全体で連携を取り支援している。
また、学科ごとの行事に関しても、積極的に教員が関わり支援している。

6. 遠隔地から修学する学生への生活環境の支援としては、必要に応じて学校近隣のアパートや駐車場の紹介等を行っている。

7. 保護者会組織であるMO後援会の活動を積極的にサポートし、総会や懇親会、会報誌等を通して学校の教育活動の情報提供を行っている。また、学生の学力不足、心理面等の問題にあたっては保護者と適切に連携をとって解決に努めている。

8. 卒業後、いつでも就業上の悩みや離職・再就職の相談などに応じるといった支援を行っている。また、国家試験に合格することができなかった学生に対しては、模擬試験受験や国試再受験者への助成、図書館開放等の体制を取っている。さらに、同窓会を組織し、卒業後に研究会を開催するとともに、研究活動に対応すべく医学関連ジャーナルおよび電子書籍などの医療情報を提供。また、卒業生と在校生が交流する機会（home coming day! など）も設けている。

9. 社会人経験者および社会人学生の学修支援、履修制度の整備として、社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則で定め、適切に運用している。また、経済的な支援環境としては一部学科に限られるが、教育訓練給付金の指定を受けており、給付条件に当てはまる社会人学生が利用できるようになっている。教育的な支援としては、看護通信において昨年度より授業の補講、国試対策としてナイトゼミをオンラインで定期的に実施し、多くの学生が受講している。

10. 栃木県専修学校各種学校連合会主催の進路連絡協議会や研修会等に参加し、高校の教員と情報を共有し、各学科と連携をとりながら学生指導にあたっている。また、中学校等が行うキャリア教育に対して教員を派遣するなどの支援協力を積極的に行うとともに地域の中学生の職場体験にも協力している。

【課題】

保護者会組織であるMO後援会において、保護者への連絡を学生経由で行う事をやめ、直接郵送に変更したが、利便さやコストの面では紙ベースの運用に課題がある。

【改善方策等】

情報機器等を利用した通知方法の情報収集し、導入を検討する。

（６）教育環境

Q	評　価　項　目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	４
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	４
3	防災に対する体制は整備されているか	４
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．施設・設備は、現行の教育に対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応は勿論の事、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。
令和５年度は、１号館・３号館の雨漏り防止対策のための塗装工事等が終了し、雨漏りが改善された。
また、学生が休憩できるスペースの確保を行い、椅子等を準備した。

2．実習先は、法令の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。
実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置、もしくは定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている

3．防災訓練は、法令及び消防計画に基づき毎年１ 回実施し、消火器・非常ベル等の消防設備は、法令に基づき年に２ 回の点検を実施している。
なお、コロナも５類に移行したことから、消防署職員の方を招き、避難訓練を実施。学生・教職員共に実際の避難経路を使い避難行動を行った。

4．学校安全計画、学校保健計画、危機管理マニュアルを整備している。

【課題】

長年使用している施設は、場所や状況に合わせて改修・補修の必要があり、施設の状況を見ながら、短期・中期・長期に分け対応していく必要がある。

【改善方策等】

緊急性のある個所は、早期に改修・補修を進めていく。また、今後中長期的に改修・補修が必要な箇所については、コストを鑑みながら進めていく。

（７）学生の受入れ募集

Q	評　価　項　目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	４
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	２
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	４
4	学納金は妥当なものとなっているか	４
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	４
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1．高等学校内ガイダンスに積極的に参加し、希望者に対し教育活動を行っている。高校訪問に関しては年４回（５月、７月、９月、１２月）実施している。また、入試後や問い合わせがあった際には、臨時訪問も実施し、入試情報等の情報提供に取り組んでいる。

2．栃木県専修学校各種学校連合会のルールに基づき、願書受付時期の設定や広報活動を行っている。入試区分としてはAO入試、推薦入試、一般入試、社会人入試を実施している。SNSでは入試情報の他、学校行事の様子や学科の魅力発信を行っている。

3．学校案内及びホームページ等の記載にあたっては、真実を明瞭、公正に記載している。教育成果についても情報公開ページの中で正確に伝えている。また、オープンキャンパス、高等学校内ガイダンス等での募集活動においても、カリキュラム、就職状況等、正確に情報提供を行っている。

4．全日制課程、通信制課程各学科の学納金は社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており妥当なものであると考えている。また、金額や活用できる経済的支援等は募集要項、ホームページに明示している。

5．入学選考基準については学科毎に設定し運用している。入試判定会議では、理事長、校長、統括部長、事務局長、学科長が出席し、それぞれの視点から判定を行い、合否を決定している。

6．AO入試エントリー開始以降、エントリーや出願があった場合には随時報告を行い、現在の募集状況の周知を行っている。運営会議では年度初めに定めた目標値と比較した月毎のデータを提示している。

【課題】

２．オープンキャンパスの参加者数は多くの学科で前年度より上回っていたが、オープンキャンパスからの出願数に関しては、学科によって差がついてしまっている。

【改善方策等】

２．それぞれの職種希望者に対しては接触することができている状況である為、各学科の強みを見直し、オープンキャンパス参加者に訴求できるように準備を整える。当日の対応、案内方法、案内資料は学科毎に異なるが、成果のあったものを共有し、学校全体でブラッシュアップを行う。 また、WEB 広告は期待していた効果が出せなかった為、WEB 広告に代わる施策を検討し、オープンキャンパスへの参加者増に繋げる。

（８）財務

Q	評　価　項　目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	４
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	４
3	財務について会計監査が適正に行われているか	４
4	財務情報公開の体制整備はできているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1. 収支を注視し予算に見合った運営努力をしている。

2. 予算は計画に従って妥当に執行されており、超過が見込まれる場合には適正な補正措置を講じている。

3. 会計監査は法人本部の所管で適切なスケジュールで監事による監査（外部）及び会計事務所による定期監査も実施し、アドバイスを受けながら指摘事項がある場合には適切に是正措置を講じている。

4. 財務情報はホームページにて公開している。

【課題】

年度によって学納金の増減があるため、財政状況が不安定にならぬよう管理を徹底し法人全体で対策を検討していく。

【改善方策等】

学納金収入の安定性の継続
経費削減等の継続及び徹底

（９）法令等の遵守

Q	評　価　項　目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	４
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	４
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	４
4	自己評価結果を公開しているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1. 専修学校設置基準及び専修学校の教育に関わる各種の法令を遵守している。また、法令等の指定学科にあっては、その基準及び取得可能な資格に関する諸法令を遵守し適正な運営をしている。
令和５年度は、マロニエの時間割変更（令和６年度～）、理学療法学科の定員増加（令和７年度入学生～）社会福祉学科通信課程・精神保健福祉学科通信課程のカリキュラムの変更申請があり、問題なく進行中である。

2. 個人情報については「個人情報保護基本方針」・「個人情報の保護に関する規則」を定め、対策を取っている。

3. 毎年新年度初めに前年度の自己評価を学科・部署ごとに行い、現状や取り組むべき課題等を報告書としてまとめた上で、その年の重点課題・運営方針と併せて教育活動や学校運営の改善に努めている。

4. 自己評価及び学校関係者評価結果の報告書をはじめとした学校の諸情報は、ホームページの「情報公開」にて公開している。

【課題】

・理学療法学科の定員増加に関しては各種申請が現在進行中である。実地調査も令和６年度に予定されており、しっかりと準備しておく必要がある。
・職業実践専門課程の認定条件に学校評価が入っているが、条件が見直しになる可能性があり、学校評価の内容も精査されることが懸念される。求められる基準で実施できているか定期的に確認することが必要。

【改善方策等】

・申請書類の作成の他、学科の使用教室や、備品の整備を完了させる。
・学校評価のガイドラインをはじめとした、国が示している基準や見直しの内容を遅滞なく確認する。

（１０）社会貢献・地域貢献

Q	評　価　項　目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	４
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	３
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	４

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

【評価に対する根拠（令和５年度の取り組みと状況など）】

1. 自治体からの依頼による学校施設の貸与および関係協会・団体研修への学校施設・機器備品の貸与を積極的に実施し、社会貢献・地域貢献を行っている。

2. 定期的な地域清掃活動などのボランティア活動、義援金活動を実施している。

3. 地域の公開講座への講師派遣等を積極的に実施している。また、一般教育訓練・専門実践教育訓練の指定認定を受けるなど積極的に制度利用者を受け入れている。

【課題】

社会貢献・地域貢献およびボランティア活動を法人として積極的に奨励・支援しているが、コロナによって減少したボランティア求人依頼は、コロナ５類移行後も増加することがなく、結果活動がコロナ前のように戻るには至らなかった。

【改善方策等】

従来のボランティアだけでなく、新たなボランティア活動の開拓をするとともに、活動の組織的支援に努める。